

愛に生き

深川市立一已中学校 学校だより

令和5年8月31日

発行者：深川市立一已中学校 電話：0164-22-3341 FAX：0164-22-3653

<http://ed.city.fukagawa.hokkaido.jp/ichiyanjh/index.html>

真に生き

美に生きる

自分が見た自分と他が見た自分

校長 坂本 征人

先日、何十年ぶりかで「鳥人間コンテスト」というテレビ番組を見ました。数十年前に見たときには、プロペラの機体なんてありませんでしたし、70kmのコースなんてありませんでした。

ただ、昔も今も、社会人であっても学生であっても、それぞれのチームが機体をつくる際には、重量や風の抵抗、強度やパイロットの体型等を考え、チームのみんなで試行錯誤しながら設計、組み立て、完成したときには大きな達成感や成就感があったのだと思います。またコンテスト当日、うまく飛行したときの達成感や自己有用感はこの上ないものでしょう。ただ、うまく飛行できず悔しい気持ちになったとしても、そこには次の達成感を大きくする要素が詰まっているはずで

日本の子どもたちの自己肯定感、諸外国に比べ低い状況であることが、さまざまな調査結果に示されています。これからの時代に求められる資質・能力を身につけていくために、子どもたちが自信をもって成長し、力を発揮することができるよう、自己肯定感を高めていくことが必要です。

自己肯定感には、勉強やスポーツなどにおいて相手と競い合うなど、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感から育まれる自己肯定感。自分の長所や短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身につけられる自己肯定感。二つの側面から捉えることができます。したがって、何事にも積極的にチャレンジし、自らを高めていく姿勢を身につけること。自己を見つめ、自分の長所と短所、自信のあるところとないところの両方を受容し、自分らしさを見失うことなく、自らの力を最大限発揮できるようになることの両方をバランスよく育むことが求められます。

また、子どもたちの社会性を高め、「人と関わることが楽しい」「人の役に立ちたい」と思える自己有用感を高めることも大切です。他者から評価され、認められたという思いは、子どもたちが自分に対して安定した自己肯定感を持つことにつながります。私たちは、「他者との関係の中での自己」はどんな存在であるか気にします。自己肯定感をもつために自己有用感は欠かせないのです。

たとえば、自分で「私は料理が上手だ」というのは照れくさくて言いにくくても、「周りから『料理が上手だね』と言われる」ということは比較的言いやすいのではないのでしょうか。そうすると、誰かに料理を振る舞うことにも自信が出てきたり、さらに相手を喜ばせようと、新メニューにチャレンジしたりするようになるでしょう。そして、それがさらに相手に喜ばれて評価されれば、さらに自己有用感が高まります。周りから認められた上で生じる自己有用感、自分にとって根拠のある自己肯定感へとつながります。

子供たちは、保護者や教師、友達など、人とのよい関わりや評価によって自己肯定感や自己有用感が高まります。さまざまな体験活動を通じて、達成感や成功体験等を得るとともに、失敗や挫折を経験したときに、自分を受け入れ、課題に立ち向かう姿勢を身につけていくことが大切です。学校、保護者、地域社会が一体となって、自己肯定感の高い子供たちを育成してまいりたいと思います。皆様のご協力をお願い申し上げます。

